



REPORT

新潟大学 J-PEAKS WEEK 2026 開催報告

J-PEAKS WEEK 2026は、多くの皆様のご参加とご協力のもと、盛況のうちに全日程を終了いたしました。2週間にわたるさまざまな企画では、分野や組織の垣根を越えた交流が生まれ、新たな研究連携や共創の可能性を感じる機会となりました。ご参加いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。前号では前半に開催したイベントの様子をご紹介しましたが、本号では後半に開催した主要イベントの様子をお届けします。当日の熱気や活発な議論の様子をぜひご覧ください！



J-PEAKS「先導研究フォーラム」

9月18日、新潟大学五十嵐キャンパス教育学部D棟8階「共創ラウンジ」において、J-PEAKS「先導研究フォーラム」を開催しました。会場には約70名、オンラインでは約50名が参加し、戦略的飛躍プログラム（Strategic Leap Program: SLP）の始動と、研究のさらなる飛躍に向けた展望を共有しました。連携大学である中部大学をはじめ、学外の研究者も多数参加しました。本フォーラムは、新潟大学がJ-PEAKSのもとで推進するSLPの全体像を共有するとともに、採択課題の研究者が分野や組織の枠を越えて交流し、新たな共同研究や学際的ネットワークの形成につなげることを目的として開催したものです。



第一部では、染矢俊幸学長による開会挨拶、J-PEAKS伴走チームの佐藤勲・ものづくり大学学長による来賓挨拶に続き、川端理事が「新潟大学J-PEAKSハイライト」、小野寺理事が「SLP採択課題全体像と展開可能性」について紹介しました。また、SLP特別発表では、採択課題の中から今後の飛躍が特に期待される研究として自然科学系（農学部）の中井博之准教授の「次世代腸内細菌叢編集技術を基軸とした脳腸相関解明によるヒトの健康増進と疾患治療への展開」が選出されました。同課題はSLPコアステージに続く飛躍ステージへの進出が内定しており、今後のさらなる研究展開への期待が高まりました。

第二部では、SLP採択課題33課題によるポスターセッションと交流会を実施しました。研究者が研究内容や今後の展開、他分野との連携の可能性を紹介したほか、研究センターや共用設備、オープンアクセス論文掲載料支援（APC支援）、UA制度などの研究支援に関する展示も行われました。会場では、研究者と研究支援人材が活発に意見交換を行い、新たな連携や研究展開につながる交流の場となりました。

新潟大学は今後も、J-PEAKSを通じて「脳といのち」「食と健康」を中心とした研究力強化を推進し、SLP採択課題の発展と研究者の新たな挑戦を支援していきます。



研究統括機構ELSIセンター「J-PEAKS WEEKシンポジウム」

研究統括機構ELSIセンターは、本学J-PEAKS事業における2つの重点領域を強化する組織整備の一環として、ひとに関わるイノベーション創出・社会実装やAI活用等における倫理的課題等に適切に対応する機能強化を目的に、学長直轄特区に位置づけられています。

9月16日開催の国際シンポジウム「ニューロライツと『同意』のゆくえ」では、国内外の大学・研究機関関係者約70名が参加し、ニューロテクノロジーと、その社会実装に伴う倫理的・法的・社会的課題について議論が行われました。基調講演では、神経倫理・AI倫理分野の第一人者であるJosé M. Muñoz氏が、脳活動を計測・活用する技術の急速な発展と、その活用領域の広がりについて紹介しました。また、パネルディスカッションでは、職場での脳波モニタリングや子どもたちへのニューロテクノロジー教育、脳科学教育の現状と課題など、多角的な視点から意見交換が行われました。参加者は、技術革新と個人の権利保護を両立させる重要性について理解を深めました。



9月17日には、研究支援シンポジウム「競争から協創へー研究拠点・施設間のデータ試料等の連携の具体化方策ー」を開催し、全国の研究者、URA、事務職員など約65名が参加しました。

シンポジウムでは、東北メディカル・メガバンク計画の成果や今後の展望、研究機関間のデータ・試料共有、遺伝資源の利用に関する課題などが紹介されました。また、ELSIやRRIの視点を踏まえた研究拠点間連携のあり方について議論が行われ、人材育成やネットワーク構築、研究支援部門の役割などについて活発な意見交換が交わされました。終了後にはネットワーキングや施設見学も実施され、参加者同士の交流を深める機会となりました。

ELSIセンターでは今後も、先端科学技術の発展に伴う課題に向き合いながら、分野や機関を越えた協創を促進し、研究成果の国際・地域社会への還元に取り組んでまいります。



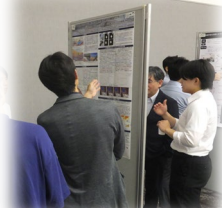
BDA研究センター「データサイエンス・AIシンポジウム2026」

9月17日、アートホテル新潟駅前において、新潟大学ビッグデータアクティベーション研究センター（BDA研究センター）主催の「新潟大学データサイエンス・AIシンポジウム2026」を開催し、70名を超える方々にご参加いただきました。

当日は、神戸大学大学院工学研究科教授の寺田努氏による招待講演「ウェアラブルセンシングとフィードバックが変える 医療・健康・生活」が行われ、ウェアラブルセンシングの本質や今後の展望について紹介されました。また、BDA研究センター長の山崎達也からセンターの活動報告を行うとともに、2026年10月に発足した「AI&データサイエンスイノベーション共創センター」の概要を紹介しました。

ポスターセッションでは16件の研究発表が行われ、参加者との活発な意見交換が行われました。さらに、中部大学理工学部教授の平田豊氏による招待講演「人工小脳の実現とロボット制御への応用」では、人工小脳技術の可能性とロボット分野への応用について紹介されました。

今後は新センターにおいて、データサイエンス・AI分野における研究をさらに発展させるとともに、多様な主体との連携・共創を推進していきます。



※BDA研究センターはR8.10.1より「AI&データサイエンスイノベーション共創センター」となりました！

TOPICS

中部大学との大学間連携協定を締結し、交流会を開催

新潟大学は、2026年9月1日に中部大学と大学間連携協定を締結しました。本協定は、研究、教育、人材育成、社会実装等の分野における連携を強化し、両大学の特色や強みを生かした協働を推進することを目的としています。

新潟大学のJ-PEAKS事業において、中部大学は連携大学として参画しており、両大学は緊密な連携のもとで取組を進めています。本協定により研究者・学生交流や共同研究、産学官連携などをさらに発展させていきます。また、9月30日には協定締結を記念した交流会を本学で開催し、中部大学の前島正義学長をはじめとする関係者を迎えました。懇談会では、J-PEAKSを起点とした研究力強化の取組や、AI・データサイエンス分野をはじめとする連携について紹介が行われたほか、大学院進学 の促進、若手研究者やAI人材の育成、地域産業との連携など、両大学に共通する課題について活発な意見交換が行われました。

今後、中部大学との組織的な連携を深め、両大学の特色を生かした共同研究や人材交流を推進するとともに、その成果を地域社会及び産業界へ還元してまいります。

新潟大学と中部大学との 連携協定締結記念交流会



RESOURCES

J-PEAKSにおける大学プロセスDXの取り組みについて

J-PEAKSでは、研究者や事務職員の時間確保のための手続き等の効率化を進める大学プロセスDXを推進しています。その一環で導入した事務DXシステムと、創造時間を生み出すプロジェクトについて紹介します！



新大ID始動！1人1IDで学内サービスをもっと便利に



新潟大学DX推進機構では、教職員・学生が利用する様々な学内システムを、より安全かつ便利に利用できる環境を実現するため、統合アカウント基盤を整備し、2026年6月から運用を開始しました。従来は業務システムごとにアカウントが発行され、利用者はシステムごとに異なるアカウントを所持する必要がありました。また、身分変更の際にはアカウントが再作成されるなど管理上の課題もありました。

新たに発行された「新大ID」は身分変更があっても継続して利用できるIDです。これにより、1人1IDの利用環境を整備し、大学全体でのアカウント管理の一元化を図っていきます。利用者は、新大IDで一度サインインするだけで、複数のサービスを利用できるシングルサインオン（SSO）により、利便性が向上します。複数のIDやパスワードを使い分ける負担が軽減されるほか、多要素認証の導入により、セキュリティも強化されます。

現在は先行して、年末調整・給与明細システムで利用を開始しており、今後は対象システムを順次拡大していく予定です。統合アカウント基盤は目に見えにくい取組ではありますが、教育・研究・業務を支える重要なインフラです。安定した認証基盤の整備により、今後の新たなデジタルサービスの導入や活用促進を支える土台としての機能も期待されます。

● J-PEAKSプチコラム—現場からのひとこと便り ●

「毎月、本当にネタがあるのだろうか」。1年前、J-PEAKS NOWの創刊を少し離れたところから見ていた私は、実はそんな余計な心配をしていました。ところがVol.12を迎えた今、悩みはまったく逆。「載せたいことが多すぎて、入りきらない」です。これは何とありがたい悩みで、教職員の皆さんがJ-PEAKSをさまざまな形で活用し、新しい研究や連携に挑戦してくださっている証なのだと思います。先月のJ-PEAKS WEEKでも、約1,000人が参加し、多様な交流や新たなつながりが生まれ、本学の取組が学内外へ着実に広がっていることを実感しました。とはいえ、イベント開催がゴールではありません。そこで生まれた出会いや挑戦を次へつなぎ、本学の研究の強みを大学全体の力にしていけることが大切です。これからもそんな挑戦をしっかりと支え、応援していきたいと思っています。【YI】

● お問合せ・ウェブサイト ●

○お問合せ：新潟大学 研究企画推進部 研究推進課

TEL: 025-262-7174

MAIL: kenkyukyoten@adm.niigata-u.ac.jp

○新潟大学J-PEAKS ウェブサイト

<https://www.niigata-u.ac.jp/j-peaks/>

本学J-PEAKS関連のイベント情報や活動状況をご確認いただけます。



○新潟大学J-PEAKS 学内者向けページ

<https://app.cais.niigata-u.ac.jp/shurl/fw/2PLWiy>

全学への迅速な情報共有および事業運営の透明性を図るため、予算配分を含むグランドデザインや会議資料等を、常時学内限定公開しています。より詳しい情報をご覧になりたい場合は、こちらにアクセス願います。

